

第40回 滋賀県社会福祉学会 開催案内

(自由研究発表・実践報告、シンポジウム/第3回ひたすらなるつながりフォーラム)

●開催日 **令和4年(2022年)2月22日(火)**
9:30~16:00(9:00受付)

●会場 **滋賀県立長寿社会福祉センター**
(草津市笠山七丁目8番138号)

●定員 **会場参加 200名 / オンライン参加 100名**

※オンライン配信も行い、「3密」の回避など感染防止対策を講じたうえで開催します。
オンライン参加者は、会場から配信される映像を各自でご視聴いただきます。

テーマ

『40年を振り返る
滋賀ならではの福祉の価値
それを生み出す現場力』

主催 **滋賀県社会福祉学会**

(事務局 / 滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会)

第40回滋賀県社会福祉学会 開催のご案内

学会テーマ

『40年を振り返る 滋賀ならではの福祉の価値 それを生み出す現場力』

1 趣 旨

滋賀県社会福祉学会は、昭和58年よりスタートし、県内の様々な分野の方々に参画いただきながら、滋賀ならではの社会福祉の実践や不断(普段)の研究を共有し学び続ける場として創り上げてきました。

40周年となる今回の学会では、未来へとつながる現場での“実践”を、より多くの方に知っていただくことを目的として、「研究発表」に加え、「実践報告」の場も設けています。

また、滋賀ならではの福祉の価値を生み出してきた“滋賀の福祉人”の現場力を共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へつなげる場として開催します。

オンライン配信もいたしますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

2 主 催

滋賀県社会福祉学会（事務局：滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会）

3 日 時

令和4年(2022年)2月22日(火) 9:30～16:00

4 会 場

滋賀県立長寿社会福祉センター（滋賀県草津市笠山7丁目8-138）

※オンライン参加者は、上記センターより配信する動画を各職場やご自宅での視聴となります。

5 日 程

9:00～9:30	9:30～9:45	9:45～9:50	9:50～12:50		13:30～15:35	15:35～16:00
受 付	開会式	オリエンテーション (各分科会)	自由研究発表 実践報告	昼食休憩	シンポジウム	閉会式 (奨励賞発表)

※分科会により終了時間が異なります。

6 参加対象

社会福祉従事者、医療・保健関係者、教育関係者、SDGs・社会貢献に関心のある企業・団体関係者、ボランティア、地域福祉活動実践者、学生、福祉に関心のある人

7 参加費（資料冊子代）

一般参加者・発表参加者…………… 1,000 円

大学・短大・専門学校等学生、高校生以下…………… 無 料

※会場参加者は、当日受付にてお支払いください。

※オンライン参加者は、お申込み後に、別途、事務局から振込先等をご案内いたします。

なお、振込手数料は、参加者負担となりますのでご了承ください。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により急遽中止となった場合は、事前に振り込んでいただいているオンライン参加者には、参加費をご返還いたします。

ただし、当日、参加者のご都合により不参加となった場合においては、ご返金はいたしません。

8 定 員

【午前の部】 自由研究発表・実践報告	【午後の部】 シンポジウム
① 会場参加……………200名 ② オンライン参加（ZOOMでの参加）……100名 →第1分科会と第2分科会のみオンライン配信あり	① 会場参加……………200名 ② オンライン参加（ZOOMでの参加）……100名

9 申込方法

- 新型コロナウイルス感染症等の対策のため事前申込制とします。
- 参加申し込みは、以下のいずれかの方法をお願いします。
 - ① 別紙「一般参加申込書」に必要事項をご記入のうえ、FAX(077-567-5160)に送信してください。
 - ② 右記申込フォーム（QRコード）よりお申込みください。（おひとり様ずつの申込みになります。）
 - ③ 滋賀県社協のホームページ（<http://www.shigashakyo.jp/>）から申込書をダウンロードいただき、メールで shiga-gakkai@shigashakyo.jp へてに送付してください。
- 会場参加の場合、健康観察票を上記ホームページよりダウンロードいただき、必要事項を予めご記入のうえ、当日、受付にご提出ください。



10 参加申込締切 **令和4年2月14日(月)**

※定員に達した場合は、締め切り期日前でも募集を終了いたします。（事前申込必須）

11 手話通訳等

- シンポジウムについては、手話通訳、要約筆記を配置いたします。
- 自由研究発表・実践報告の時間帯（分科会）において、手話通訳・要約筆記等をご希望の場合は、申込み時にその旨をご記入ください。

12 昼 食 各自でご用意ください。（指定の場所での飲食となります。）

13 滋賀県社会福祉学会における感染対策について

- 消毒、換気の徹底（各会場前に消毒液の設置・会場の定期的な消毒・換気）
 - 参加者同士の距離の確保（仕切りや間隔を空けた配置・混雑防止のための入場制限）
 - 来場者の検温・消毒・手洗い・マスク（不織布）着用の協力の徹底
- なお、体温が37.5℃以上あるなど体調が優れない方には、参加をご遠慮いただきます。

※今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況により、急遽中止となる場合もございますので、ご了承ください。その際は、滋賀県社会福祉協議会ホームページにてお知らせいたします。

<会場参加の方>

- この「プログラム」や当日配布する「学会要旨集」をご覧のうえ、各自が聞きたいと思う発表に自由に参加することができます。
- 分科会間の移動は自由です。ただし、発表中の移動はご遠慮ください。
- 新型コロナウイルス感染防止のため、各会場での入場制限を設けております。会場が定員になりましたら、他分科会へのご参加にご協力をお願いいたします。

<オンライン参加の方>

- この「プログラム」や事前にお送りする「学会要旨集」をご覧のうえ、第1分科会か第2分科会のうち、各自が聞きたいと思う発表に参加することができます。（後日、URLをご指定のメールアドレスにお送りします。）
- 各自でインターネットから分科会を選択いただきご視聴ください。発表中の移動はご遠慮ください。

自由研究発表・実践報告 (9:50～12:50) ※分科会により終了時間が異なります。

自由研究発表は、社会福祉関係者が日頃から行っている活動や他に先駆けて実施している取り組みなど実践を通して得た発見や示唆を発表し、関係者みんなで学び・励まし合う貴重な場です。

また、今年度は40回の特別企画として実践報告もあります。

この場で発表・検討されたことがお互いの活動意欲と実践を高め、滋賀の社会福祉向上につながればと思います。

1) 発表時間 1題につき、発表15分 質疑応答7分 計22分

※各発表の間には、転換・換気や移動の時間として8分を設けさせていただきます。

2) 自由研究発表・実践報告(分科会) 分野及び題数 31題

分科会	分野	題数
分科会1	高齢者福祉①(オンライン配信あり)	5題
分科会2	高齢者福祉②/地域福祉①(オンライン配信あり)	5題
分科会3	障害者福祉①	5題
分科会4	障害者福祉②	4題
分科会5	子ども・若者①	6題
分科会6	地域福祉②/子ども・若者②	6題

分科会の詳細は5～6ページに掲載しています。

3) 滋賀県社会福祉学会 奨励賞

自由研究発表の中から「滋賀県社会福祉学会奨励賞」を選び、研究を奨励します。

また、奨励賞に選ばれた発表は、研究誌『滋賀社会福祉研究第25号』(令和5年2月発行予定)に研究レポートを掲載し、広く公表します。

4) 個人情報の保護

発表のなかには、実際の事例等を取り上げたものが多いです。事例は発表者が自らの研究成果を披露し、討議することで、参加者と共に研鑽を図ろうという意味で提供されるものです。発表者および参加者は、法令等に基づき、個人情報を保護してください。

学会シンポジウム / 第3回ひたすらなるつながりフォーラム (13:30～15:35)

テーマ 『40年を振り返る

滋賀ならではの福祉の価値 それを生み出す現場力』

滋賀県には、実践のなかから生まれ、制度化された「滋賀ならではの先駆的な事業」が数々あります。

今回は、その事業が制度化されるまでにどのようなエピソードがあったのか、実施しようとしたきっかけや動機、また、制度化に向けた関係者等への呼びかけや働きかけなど、実践者の現場力から生み出される「福祉の価値」について共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へとつなげる場として開催します。

シンポジスト

角野 晃子 さん

社会福祉法人グロー（GLOW） オープンスペースレジャーとエリア総合施設長

大学時代、障害者支援に興味を持ち、滋賀県甲賀郡（現：甲賀市・湖南市）で芽吹き始めた「レスパイトサービス」の事業所で実習。障害者やその家族を中心に置き、自分たちで「考え組み立て行動する」ことに魅了され、そのまま卒業と同時に就職。平成13年、新法人設立に参画し利用者支援のブレーンとなる。平成17年、老人デイサービス事業の新規立ち上げと同時に管理者となり、高齢者福祉に新しい風を吹かせようと試行錯誤を始め、現在も奮闘中。



辻 亨さん

社会福祉法人さざなみ学園 園長

昭和57年4月 社会福祉法人さざなみ学園（虚弱児施設）に入職。
平成10年4月 虚弱児施設から情緒障害児短期治療施設に施設役割が変更となり、被虐待児・発達障がい児などの治療的支援に携わる。
平成15年4月 同園施設長に就任。
平成23年 厚生労働省の社会的養護検討委員、情短施設運営指針ワーキング委員、第三者評価基準の策定委員をそれぞれ2年間経験する。
平成27年4月 （社福）大阪水上隣保館 山崎保育園で園長に就任。
令和2年4月 さざなみ学園に戻り施設長に就任。現在に至る。
（令和2年3月 社会福祉法人かすみ会理事長就任）
※情緒障害児短期治療施設は平成29年4月 児童心理治療施設に名称変更。



野々村 光子 さん

社会福祉法人わたむきの里福祉会
東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-” センター長

幼い頃から、母親が働く共同作業所の仲間が自宅に出入りするという環境で育つ。大学卒業後、精神障害者通所授産施設での支援を経て、精神保健福祉士を取得。京都障害者職業相談室にて精神障害者の就労支援に関わる。平成18年より現在のセンター業務に就く。色んな「働きたい」が実現する地域を目指し、「人・モノ・金・愛」が廻る仕組みを発信中。



コーディネーター

渡邊 光春

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 会長

昭和49年 滋賀県庁入庁
平成15年 滋賀県社会福祉協議会 事務局長（滋賀県より出向）
平成16年 滋賀県健康福祉部レイカディア推進課長、障害福祉課長、子ども青少年局長を歴任
平成21年 滋賀県社会福祉事業団 副理事長（滋賀県より出向）
平成23年 滋賀県健康福祉部長
平成25年 滋賀県庁退職
滋賀県社会福祉協議会会長



閉会式（15:35～16:00）

学会奨励賞発表

第40回滋賀県社会福祉学会 自由研究発表・実践報告 分科会一覽

分科会 (分野)	第1分科会/オンライン配信 (高齢者福祉①)	第2分科会/オンライン配信 (高齢者福祉②/地域福祉①)	第3分科会 (障害者福祉①)	第4分科会 (障害者福祉②)	第5分科会 (子ども・若者①)	第6分科会 (地域福祉②/子ども・若者②)
第1発表 (9:50~10:20)	【研究発表】 A氏へのポジショニング支援の有効性に関する研究 ○田中 収人	【研究発表】 みんなが心暖まる居場所を求めて～利用者への理解と生活環境の構造化から～ 【発表者】 社会福祉法人心暖まる会 特別養護老人ホーム サニーレイズ彦根 ○戸崎 智加 ○宇野 佐智恵	【研究発表】 上肢のコントロールが難しい利用者に対する補助具を使ったアプローチ ～スリングシステムを使って楽器を演奏しよう～ 【発表者】 社会福祉法人びわこ学園 障害者支援センターかなえ ○酒井 由理	【研究発表】 障害者雇用を経験した中小企業家の学びについての研究報告 【発表者】 びわこリハビリテーション専門職大学 作業療法学科 ○嶋川 昌典	【研究発表】 児童養護施設においての愛着の育み 【発表者】 社会福祉法人 甲賀学園 児童養護施設 鹿深の家 ○神能 由佳	【研究発表】 防災と保健・福祉の連携による避難行動要支援者のための個別避難計画作成の取組 ～誰一人取り残さない防災の実現をめざして～ 【発表者】 高島市健康福祉部社会福祉課 ○梅村 淳
第2発表 (10:20~10:50)	【研究発表】 HALを活用した腰痛予防の取り組み ～介護ロボットを有効に使うために～ 【発表者】 社会福祉法人青社会 介護老人保健施設 長浜メディアケアセンター ○片山 陽	【研究発表】 認知機能の向上を目的とした効果的かつ汎用性の高いレジスタンス運動の確立に向けて 【発表者】 立命館大学 スポーツ健康科学研究科 ○道羅 絢斗	【研究発表】 高次脳機能障害者の住まいと生活の現状 ～家族会へのアンケートを通じて～ 【発表者】 滋賀県高次脳機能障害支援センター ○小西川 梨紗	【研究発表】 特定非営利活動法人 縁活 就労継続支援 B 型事業所 おもや ○山本 遼太	【研究発表】 自立に関する認識調査～社会的養護に携わる子どもたちと職員との認識～ 【発表者】 滋賀県児童福祉入所施設協議会 調査研究部会 ○高島 由樹	【研究発表】 教育ボランティアから福祉ボランティアへ ～3年目の成果～ 【発表者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日 夢の学習 ○池本 京子 ○名倉 勇
第3発表 (10:50~11:20)	【研究発表】 「こたわり」にこだわる～発達障害が疑われる高齢者ケアの見立てと支援について～ 【発表者】 田中ケアサービス株式会社 高月支援センター ○稲葉 光太郎	【研究発表】 甲賀市在宅介護アドバイザー事業の実施報告と介護者負担に及ぼす影響 【発表者】 甲賀市水口医療介護センター ○寺嶋 隆之	【実践報告】 甲賀地域における不動産関係者のアンケート調査結果 ～高齢者・障害者の入居を円滑にするために～ 【発表者】 社会福祉法人さわらび福祉会 支援センターこのゆびとまれ ○澤 聡子 ○山崎 秀樹	【実践報告】 就労継続支援 B 型事業所における売上確保のためのリスフマネジメントと工賃向上、サービスの質向上との運動 【発表者】 特定非営利活動法人 with us 就労継続支援 B 型事業所 こぼく自立応援センター ○本田 智見	【研究発表】 母と子のシェアハウス事業展開から見える多機能型支援の検討 【発表者】 社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会 ○坂下 ふじ子	【実践報告】 地域住民の自主的・主体的活動の創造 ～コミュニティチャートを活用した地域に根差す「ゆめのHEYAJ」の実践から～ 【発表者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日 夢の学習 ○檀本 圭治

<p>第4発表 (11:20~11:50)</p>	<p><実践報告> 抱え上げない介護は利用者、職員を救う!! そのための第一歩</p> <p>【発表者】 マザーレイク株式会社 グループホーム マザーレイク ○片岡 紗矢香 ○木村 巴香</p>	<p><実践報告> 共生型サービスの実践 ～誰もがサービスを 受けやすく～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人近江和順会 特別養護老人ホームヴィライ十二坊 在宅課 ○村岡 秀一</p>	<p><実践報告> つながりを求めて ～重症児のコミュニケーション～</p> <p>【発表者】 特定非営利活動法人 道 多機能型重症児等デイサービス ふあみりい ○小山 亜里沙 ○三台 桃香</p>	<p><実践報告> 余暇活動の中に訓練要素を取り入れた取り組み</p> <p>【発表者】 社会福祉法人グロー 滋賀県立むれやま荘 ○川崎 俊憲</p>	<p>【研究発表】 フリースクール利用者調査 ～利用者の要望と 実態の差に注目して～</p> <p>【発表者】 Since 柏原 蓮花</p>	<p><実践報告> 災害時に向けた取り組み ～ケアマネとしてできること～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 米原市社会福祉協議会 ケアプランセンター 米原市社会福祉協議会 ○杉江 美千代 ○内名 英次</p>
<p>第5発表 (11:50~12:20)</p>	<p><実践報告> 歌う 養でる 響きあう ～音楽療法の実践を通じて～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人グロー 特別養護老人ホームふくら ○志水 朋子</p>	<p><実践報告> 認知症対応型ばいじデイ サービスセンターいこいでの有 償ボランティア活動を通して ～事業所と作業療法士による 連携と今後の課題～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 近江ちるるば いこいで ○村上 順哉</p>	<p><実践報告> 障害児者の単独型短期入所制 度を活用した毎月1回の宿泊 体験活動の積み重ねがグループ ホームへの一歩</p> <p>【発表者】 特定非営利活動法人とまり木 西の湖自立の家 ○村井 竜雄</p>	<p><実践報告> 10代の居場所「やんちゃ寺」 実践報告</p> <p>【発表者】 特定非営利活動法人やんちゃ寺 ○佐藤 すみれ</p>	<p><実践報告> 乳児院における家庭支援 ～これからの乳児院の役割～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人小鳩会 小鳩乳児院 ○谷口 ひかる ○杉本 光世</p>	
<p>第6発表 (12:20~12:50)</p>				<p><実践報告> 一時保護委託・ショートステ イ事業・トワイライトステイか ら戻ってきたこと</p> <p>【発表者】 特定非営利活動法人 大津市里親会 ○田辺 幸司</p>	<p><実践報告> ショートステイ里親委託によ る社会的養育の推進と「実家の 代わりプロシエフト」</p> <p>【発表者】 草津市里親会 ○黒川 玉英</p>	

※テーマ名、発表者は変更することがあります。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和3年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
賠償責任	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763

受付時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJ20-12302 2020.12.28 作成)

滋賀県社会福祉学会事務局

滋賀の縁創造実践センター

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉部門

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号 県立長寿社会福祉センター内

電話: 077-567-3924 FAX: 077-567-5160

e-mail: shiga-gakkai@shigashakyo.jp